

S I D R

(滋賀県感染症情報)

SHIGA Infectious Diseases Report

《月報》
平成 22年 6 月
(第22 ~ 25週)

発行年月日：平成22年(2010年) 7月26日
発行：滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター
電話 077-537-7438 FAX 077-537-5548

1) 全数報告の感染症(一類～五類)

全国の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。また、届出により全国または滋賀県で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症 類型	疾 病 名	平成 22年				平成 21年 ^{*1}				感染症 類型	疾 病 名	平成 22年				平成 21年 ^{*1}					
		1～5月		6月		1～12月		1～5月				6月		1～12月		1～5月		6月		1～12月	
		滋賀県	全国	滋賀県	全国	滋賀県	全国	滋賀県	全国			滋賀県	全国	滋賀県	全国	滋賀県	全国	滋賀県	全国	滋賀県	全国
一類	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	四類	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0		
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0		日本紅斑熱	0	13	0	11	0	129	0	129		
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0		日本脳炎	0	0	0	0	0	0	3	3		
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0		ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0		
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0		Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0		
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0		鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0		
二類	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0		ブルセラ症	0	1	0	1	0	2	0	2		
	急性灰白髄炎	0	1	0	0	0	0	0	0		ベネズエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0		
	結核	100	9,249	20	2,214	256	26,932	256	26,932		ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0		
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0		発しんチフス	0	0	0	0	0	0	0	0		
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0		ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	0		
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0		マラリア	0	24	0	4	0	56	0	56		
三類	コレラ	0	4	0	0	1	16	1	16	五類	野兎病	0	0	0	0	0	0	0	0		
	細菌性赤痢	0	71	2	15	0	180	0	180		ライム病	0	3	0	1	0	9	0	9		
	腸管出血性大腸菌感染症	3	486	3	540	27	3,886	27	3,886		リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0		
	腸チフス	0	12	0	3	0	29	0	29		リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0		
	パラチフス	0	10	1	2	0	27	0	27		類鼻疽	0	2	0	0	0	0	0	0		
	四類	E型肝炎	0	27	0	7	1	56	1		56	レジオネラ症	0	202	0	42	8	712	8	712	
ウエストナイル熱		0	0	0	0	0	0	0	0		レプトスピラ症	0	1	0	2	0	16	0	16		
A型肝炎		3	221	0	33	0	115	0	115		ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0		
エキノコックス症		0	3	0	2	0	26	0	26		アメーバ赤痢	3	308	0	70	10	783	10	783		
黄熱		0	0	0	0	0	0	0	0		ウイルス性肝炎	0	78	0	18	3	220	3	220		
オウム病		0	2	1	1	0	21	0	21		急性脳炎	0	101	0	17	8	526	8	526		
オムスク出血熱		0	0	0	0	0	0	0	0		クリプトスポリジウム症	0	4	0	2	0	17	0	17		
回帰熱		0	0	0	0	0	0	0	0		クロイツフェルト・ヤコブ病	1	54	0	19	2	141	2	141		
キャサナル森林病		0	0	0	0	0	0	0	0		劇症型溶血性 レンサ球 菌感染症	0	50	0	12	2	105	2	105		
Q熱		0	0	0	0	0	2	0	2		後天性免疫不全症候群	1	551	0	127	9	1,449	9	1,449		
狂犬病		0	0	0	0	0	0	0	0		ジアルジア症	0	32	0	9	0	73	0	73		
コクシジオイデス症		0	0	0	0	0	2	0	2		髄膜炎菌性髄膜炎	0	3	0	1	0	10	0	10		
サル痘		0	0	0	0	0	0	0	0		先天性風疹症候群	0	0	0	0	0	2	0	2		
腎症候性出血熱		0	0	0	0	0	0	0	0		梅毒	4	211	0	56	3	692	3	692		
西部ウマ脳炎		0	0	0	0	0	0	0	0		破傷風	0	32	0	13	3	113	3	113		
ダニ媒介脳炎		0	0	0	0	0	0	0	0		バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0		
炭疽		0	0	0	0	0	0	0	0		バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	39	0	9	0	116	0	116		
つつが虫病		0	59	0	38	0	465	0	465		風しん	4	40	1	11	2	148	2	148		
デング熱		0	49	0	10	0	93	0	93		麻しん	0	217	1	46	7	739	7	739		
東部ウマ脳炎		0	0	0	0	0	0	0	0		新型イン フルエン ザ等感染	新型インフルエンザ(H1N1) ^(*)	-	-	-	-	138	12,639	138	12,639	
鳥インフルエンザ		0	0	0	0	0	0	0	0												

*1 感染症発生動向調査事業年報暫定値(国立感染症研究所感染症情報センター)

(*) : 集計期間は平成21年7月24日～平成21年8月24日、 - : 未集計

*1 感染症発生動向調査事業年報暫定値(国立感染症研究所感染症情報センター)

(*)：集計期間は平成21年7月24日～平成21年8月24日、-：未集計

滋賀県における全数報告感染症の概要 (6月)

<結核> 20名
性別：男性 10名、女性 10名
類型：患者 20名
病型：肺結核 13名
その他の結核 7名

<細菌性赤痢> 男性 67歳、女性 32歳
推定感染経路は接触感染および不明
で、推定感染地域は日本国内です。

<腸管出血性大腸菌感染症>
性別：男性 2名、女性 1名
年齢：2歳、4歳、42歳
血清型・毒素型：O157・VT2 2名
O157・VT1&VT2 1名

<パラチフス> 男性 24歳
推定感染経路は経口感染で、推定感
染地域はインドです。

<オウム病> 男性 38歳
推定感染経路は動物・蚊・昆虫等から
の感染で、推定感染地域は日本国内で
す。

<風しん> 男性 49歳
推定感染経路は飛沫・飛沫核感染で、
推定感染地域は日本国内です。また、ワ
クチン接種歴は不明です。

<麻しん> 女性 1歳5ヶ月
推定感染経路は不明で、推定感染地
域は日本国内です。また、ワクチン接種
歴は、1回目 有りです。

2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のうち、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症を定点把握対象感染症といいます。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります(疾患により定点数は異なります)。また、疾患によりインフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点および基幹定点に分かれています。

6月の概要

<インフルエンザ>

第22～25週(5/31～6/27)における県全体の定点当たり患者数は0～0.06で推移し、先月よりさらに減少していました。昨年をのぞく、過去の同時期とほぼ同様の発生状況を示していました。

<小児科定点疾患>

先月より増加した疾患は、水痘、伝染性紅斑(リンゴ病)、手足口病、ヘルパンギーナ等で、減少した疾患は、RSウイルス感染症、感染性胃腸炎等です(他の疾患については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。水痘では甲賀保健所管内で、伝染性紅斑では草津保健所管内で増加していました。手足口病では、先月に引き続き例年同時期よりかなり多くなっており、草津、東近江、長浜および高島保健所管内からの報告が多く、特に高島で増加していました。ヘルパンギーナでは、高島保健所管内からの報告が非常に多くなっていました。また、百日咳の報告は、大津市保健所管内で多くなっていました。

感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システムによる警報・注意報発生状況は下記に示すとおりです。

<眼科定点疾患> <基幹定点疾患>

眼科定点疾患である流行性角結膜炎は先月より減少し、急性出血性結膜炎の報告はありませんでした。基幹定点疾患では、細菌性髄膜炎は東近江保健所管内から、クラミジア肺炎は大津市保健所管内から報告がありました。また、マイコプラズマ肺炎は先月より増加し、甲賀保健所管内からの報告がやや多くなっていました。無菌性髄膜炎の報告はありませんでした。

感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システムによる 警報・注意報発生状況(平成22年第22～25週)

疾 患 名	22週 5/31～ 6/6	23週 6/7～ 6/13	24週 6/14～ 6/20	25週 6/21～ 6/27	警報発生基準値		注意報 基準値
					警報開始 基準値	警報終息 基準値	
水痘 保健所・定点当たり患者数(人)		草 津・5.00 甲 賀・4.75 東近江・4.00 彦 根・4.00	甲 賀・4.25	甲 賀・9.50 東近江・4.20	7.00	4.00	4.00
伝染性紅斑(リンゴ病) 保健所・定点当たり患者数(人)		草 津・2.83	草 津・3.50	草 津・2.67	2.00	1.00	-
手足口病 保健所・定点当たり患者数(人)			高 島・10.50	草 津・5.83 東近江・5.00 高 島・23.00	5.00	2.00	-
ヘルパンギーナ 保健所・定点当たり患者数(人)	高 島・14.50	高 島・11.50	高 島・9.50	高 島・5.00	6.00	2.00	-

* 空白部分については、警報および注意報基準値に該当する保健所管内はありません。

：警報開始基準値または警報終息基準値を超えています。

：注意報基準値を超えています。

- ：注意報の対象外という意味です。

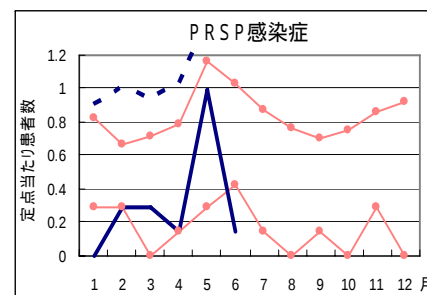
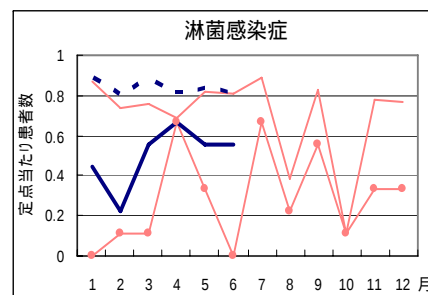
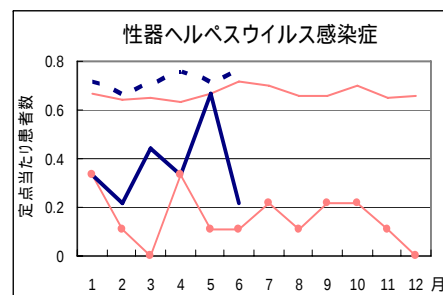
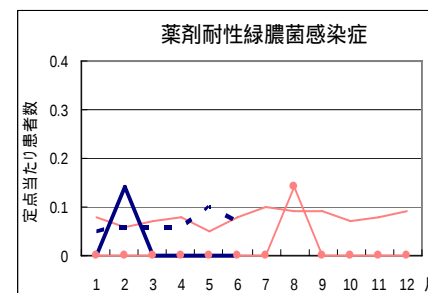
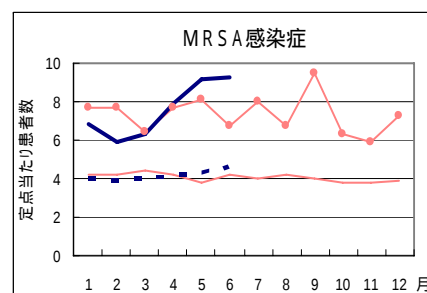
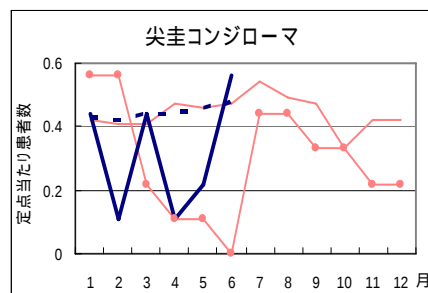
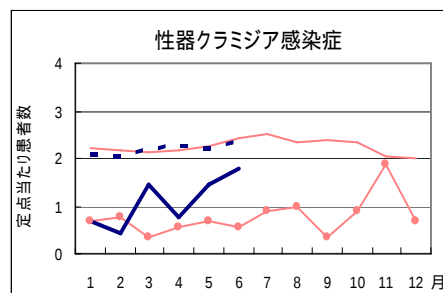
<各定点の対象疾患>

定 点	疾 患 名
インフルエンザ定点	インフルエンザ
小児科定点	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱 A群溶レン菌咽頭炎、水痘 感染性胃腸炎、手足口病 伝染性紅斑(リンゴ病)、百日咳 突発性発しん、ヘルパンギーナ 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)
眼科定点	急性出血性結膜炎 流行性角結膜炎
基幹定点	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎 マイコプラズマ肺炎 クラミジア肺炎(オウム病を除く)

全国集計などの詳細な集計結果は、**国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ**(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>) において公表されています。

3) 性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(平成22年6月)

疾患名	区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
性器クラミジア感染症	罹患数	6	4	13	7	13	16							59
	定点当たり	0.67	0.44	1.44	0.78	1.44	1.78							6.55
性器ヘルペスウイルス感染症	罹患数	3	2	4	3	6	2							20
	定点当たり	0.33	0.22	0.44	0.33	0.67	0.22							2.21
尖圭コンジローマ	罹患数	4	1	4	1	2	5							17
	定点当たり	0.44	0.11	0.44	0.11	0.22	0.56							1.88
淋菌感染症	罹患数	4	2	5	6	5	5							27
	定点当たり	0.44	0.22	0.56	0.67	0.56	0.56							3.01
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	罹患数	48	41	44	55	64	65							317
	定点当たり	6.86	5.88	6.29	7.86	9.14	9.29							45.32
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	罹患数	0	2	2	1	7	1							13
	定点当たり	0	0.29	0.29	0.14	1.00	0.14							1.86
薬剤耐性緑膿菌感染症	罹患数	0	1	0	0	0	0							1
	定点当たり	0	0.14	0	0	0	0							0.14

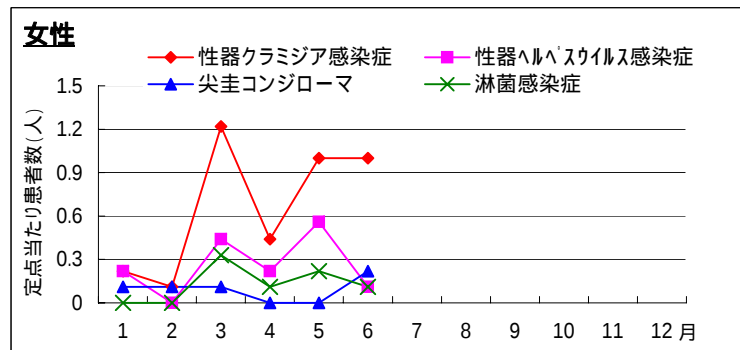
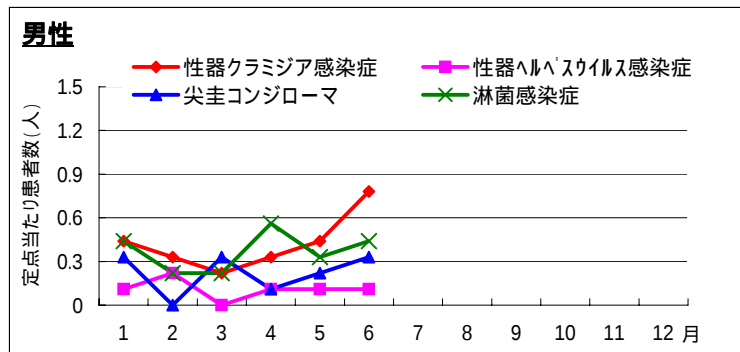


H21 〔 滋賀 〇 全国 〇 〕
H22 〔 滋賀 〇 全国 〇 〕

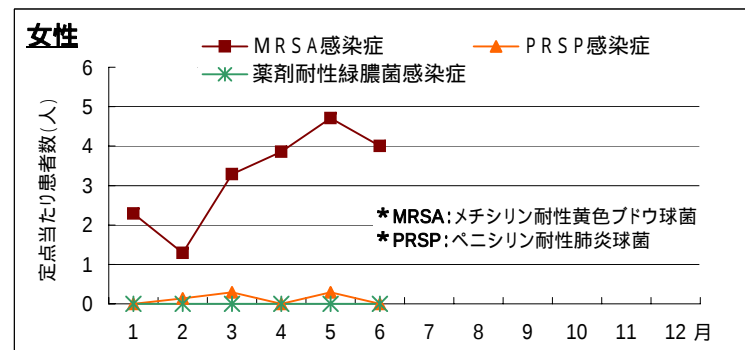
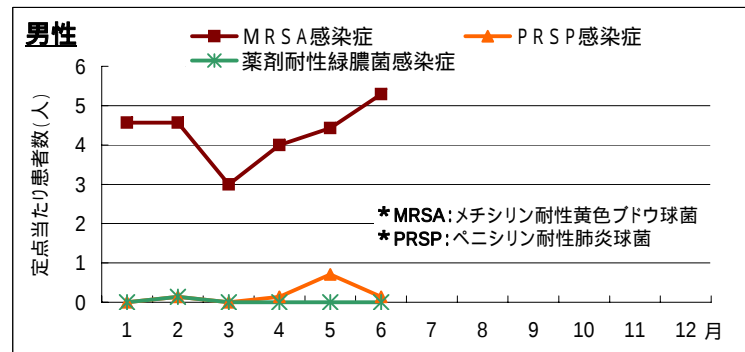
MRSA: メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
PRSP: ペニシリン耐性肺炎球菌

性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況を先月と比較すると、増加した疾患は性器クラミジア感染症および尖圭コンジローマで、減少した疾患は性器ヘルペスウイルス感染症およびPRSP感染症です。淋菌感染症およびMRSA感染症は先月とほぼ横ばいです。特に、尖圭コンジローマでは、先月に引き続き急増しています。また、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありません。

性感染症定点における疾患別発生状況 (H22.6)



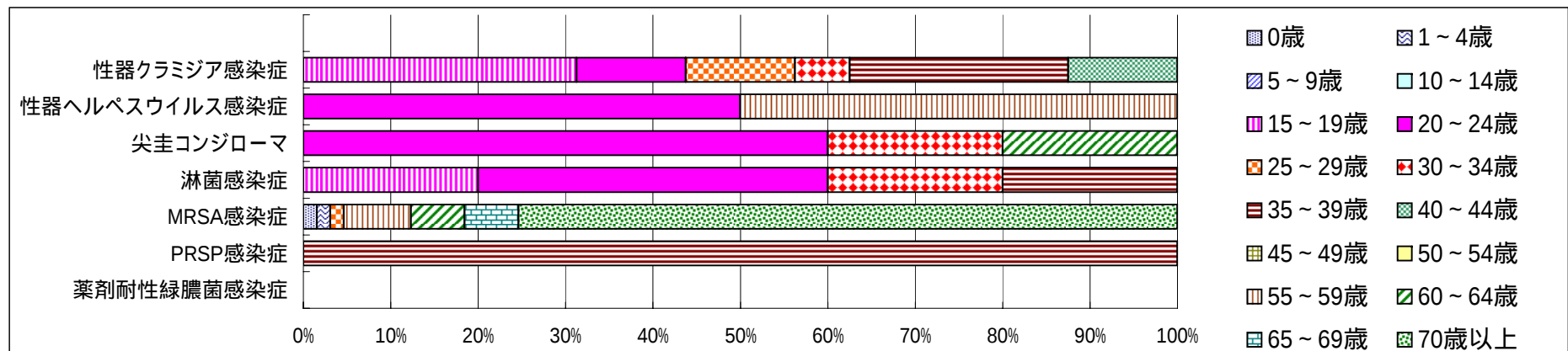
基幹定点における疾患別発生状況 (H22.6)



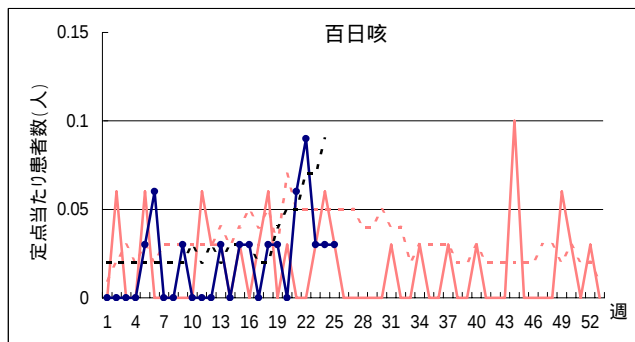
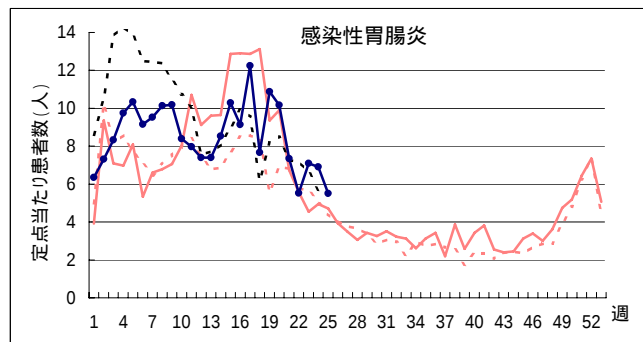
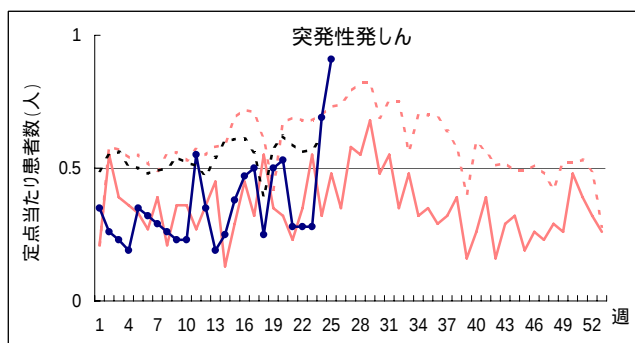
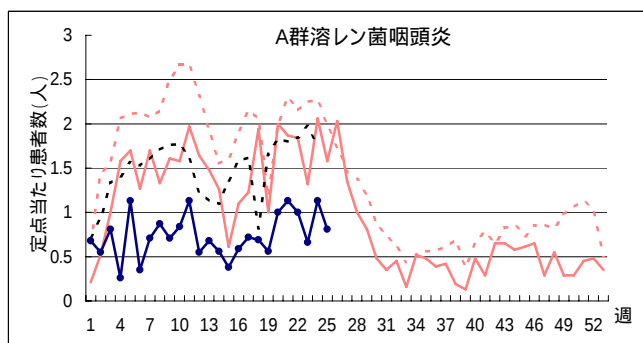
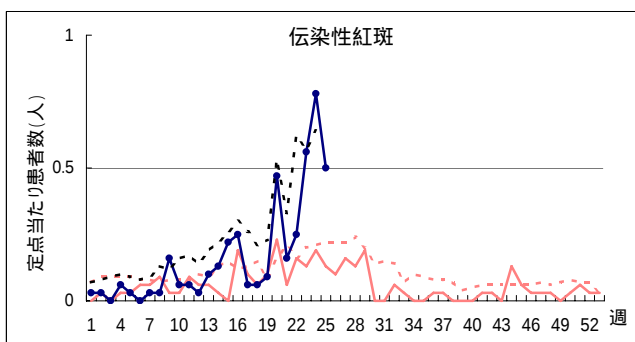
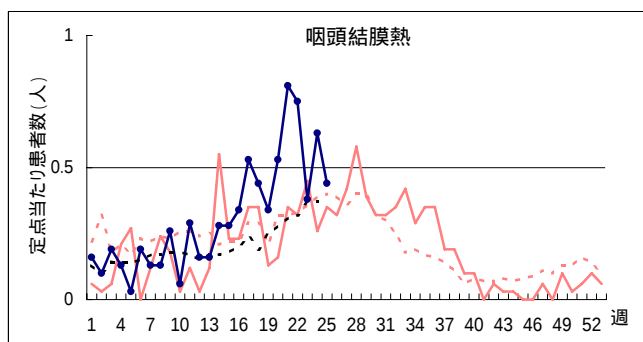
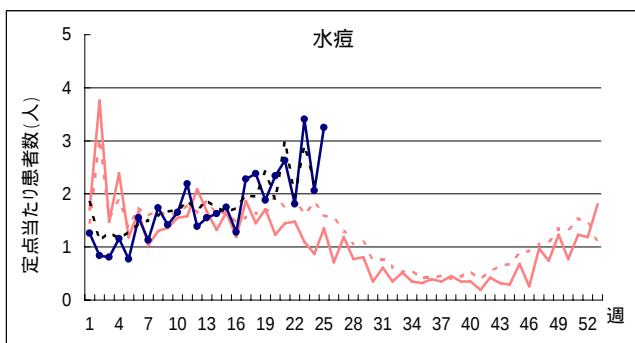
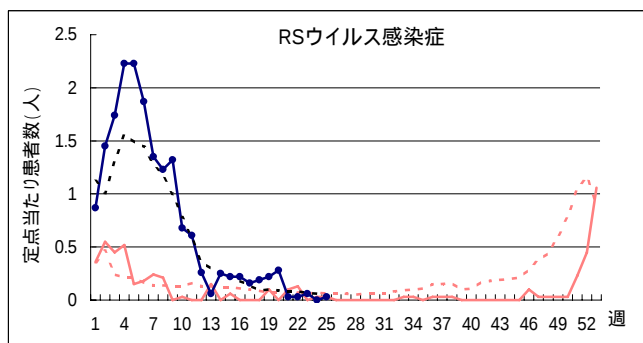
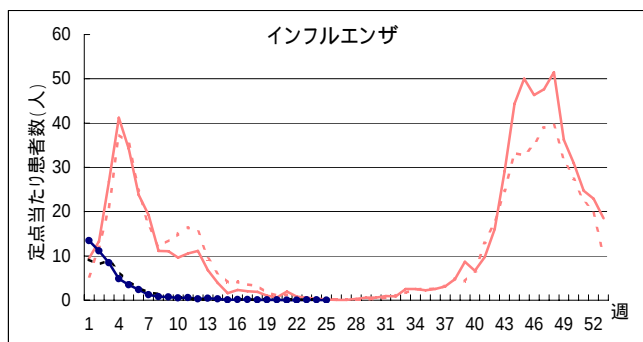
性感染症定点および基幹定点における各疾患の月別・性別発生状況は、左記グラフのとおりです。男性では、淋菌感染症以外の疾患で先月より増加し、特に性器クラミジア感染症でほぼ倍増となっています。女性では、尖圭コンジローマで先月より増加しています。

また、各疾患の年齢別発生状況は下記グラフのとおりで、性器クラミジア感染症および淋菌感染症では、15～19歳からの報告が多くなっています。特に、性器クラミジア感染症では、男性で急増しています。

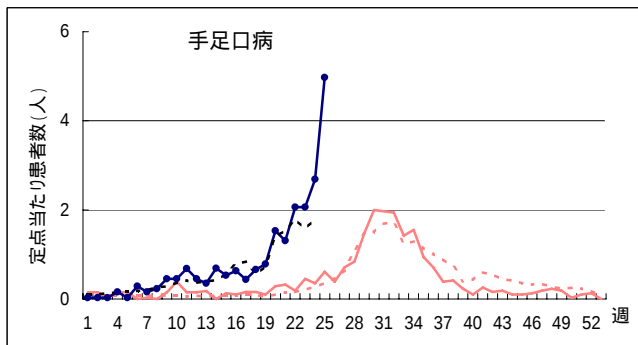
疾患別・年齢別発生状況 (H22.6)



疾病別定点当たり患者数(平成22年第1～25週、H22.1.4～H22.6.27)



疾病別定点当たり患者数(平成22年第 1 ~ 25 週、H22.1.4 ~ H22.6.27)



H21 { 滋賀 ————
 全国
 H22 { 滋賀 —●—
 全国

